

道北地域の景気の基調判断を据え置きました

皆さん、いつもこのサイトをご覧いただき、ありがとうございます。

さて、8月5日に公表しました「[金融経済概況\(道北地域\)](#)」では、道北地域の景気の基調判断を「低迷している」として、前月の表現を据え置きました。ただ、前月も述べましたように、どんどん悪くなっているという訳ではなく、厳しい状況の中でも、悪化のペースは緩やかになっています。また、仔細にみていきますと、プラス面、マイナス面、双方の動きが入り混じっていることがわかります。

まず、プラス面の動きです。

一つ目は、自動車の販売が好調なことです。いわゆるエコカー減税のほか、買い替え補助金の効果もあり、6月の自動車販売が11カ月振りに前年同月を上回りました。ハイブリッド車のみならず、減税対象となるその他の小型車にも動きが出ています。

二つ目は、家電販売が好調なことです。エコポイント制度導入の効果から、薄型テレビや冷蔵庫を中心に好調な売れ行きとなっています。

加えて、一部百貨店の閉店セールが好調でしたが、これらについては、需要の先食いという側面もありますので、上記政策効果一巡後の個人消費の先行きについては慎重に見極めていきたいと思っています。

一方、マイナス面の動きです。

これまで、当地景気を下支えしてきた公共投資が、やや足踏みしているように窺われることです。

天候不順の影響から、農作物の生育・収穫に遅れが出ています。今後の動向を注視していきたいと思います。

いくつかお知らせがありますので、[こちら](#)もご覧ください。

平成 21 年 8 月 5 日
尾家 啓之